これからの産業界が求めるのは『技術士』『半導体』『高度サービスプロフェッショナル』人材

―栃木県生産性本部で考える―

開倫塾
塾長　林明夫

Q：安倍晋三元首相のご逝去について一言。

A：6 月 8 日にご逝去された安倍晋三先生は、難病を治療しながら、日本と世界の平和と繁栄を願い大活躍なさいました。その国や世界の将来を思う志は高く、素晴らしいものでした。心からご冥福をお祈りいたします。

Q：福田富一栃木県知事に、産業人材育成についての提言を出されたそうですね。

A：(1)副会長を務める栃木県生産性本部の総会(5 月 18 日)に知事がご出席の際に、栃木県の産業人材育成についていくつか意見を申し述べたところ、「提言」として取りまとめ提出するよう要請をいただきました。

(2)1 か月余りかけて提言として取りまとめ、新井賢太郎会長とともに 7 月 8 日に知事室にて提言書をお渡し、説明と意見交換をさせていただきました。

(3)本件担当の栃木県労働観光部長、労働政策課長、副主幹の皆様もご同席くださいました。

Q：どのような内容の提言ですか。

A：栃木県の産業人材育成の三本柱として

(1)ものづくりの栃木県を更に進化させる「高度プロフェッショナル人材」として、エンジニア人材の最高の国家資格「技術士」の取得促進を！

(2)時代を先取りする「半導体関連人材」の育成を！

(3)サービス産業のイノベーションを担う「高度プロフェッショナル人材」の育成を！

＊知事の強力なリーダーシップで、様々な分野の「高度プロフェッショナル人材」の育成を！

Q：第 1 番目の「技術士」とは何ですか。

A：(1)エンジニアの 21 分野における最高の国家資格で、医師であれば「医師免許」にあたります。

(2)法律家であれば、登竜門である司法試験や司法研修所などの修了試験にあたります。

(3)「技術士補」に合格後、5 ～ 7 年の実務経験を踏まえ「技術士」試験に合格、合格後も数年に一度国家資格維持のための「試験」があります。

＊エンジニアとしての最高の国家資格ですので、製造業が盛んで就労人口の 40 ％以上を占める第二次産業の発展のために、「技術士」資格保持者の倍増、倍々増こそが栃木県の「高度プロフェッショナル人材育成」に欠かせないと考えました。

Ｑ：第２番目の「半導体関連人材」の育成とは何ですか。

Ａ：（１）国が半導体戦略を考える上で参考になるのは台湾です。世界の半導体製品の 66 ％を占める台湾は、今後更に 16 兆円を用いて、台湾国内に 20 か所の半導体生産拠点をつくり、中国の台湾進攻に備えようとしています。

（２）かつて半導体の№. 1 国であった日本も遅ればせながら、4000 億円かけて台湾の半導体企業 TSMC を九州に誘致。九州にある 8 つの高等専門学校に半導体課程をスタートさせ、半導体人材の育成に着手しました。

（３）ならば、工業県の栃木県でも高専・工業高校・理工系大学・大学院・専門学校に「半導体課程やその専攻科」をスタートさせ、半導体人材の育成を早急にスタートすることを知事に提言いたしました。

Ｑ：第３番目の「サービス産業の人材育成」とは何ですか。

Ａ：（１）サービス産業で最も望まれるのは、サービス産業の活性化、イノベーションを推し進める「サービス産業の高度プロフェッショナル人材」です。

（２）現在、円安が進んでいますので、日本の工業製品や農業製品だけでなく、日本のサービスを海外展開する「絶好のチャンス」です。

（３）サービス産業を活性化するには､何としても売り上げを上げ続けなければなりませんので、「新分野の開発・参入」と「MandA(企業買収)」は不可欠です。どちらも、創業以上の高い経営能力と集中力・エネルギーが求められます。MandA は失敗すると、東芝のウエスチングハウスのように元の企業を崩壊に導く原因となるからです。

Ｑ：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

Ａ：（１）キャリア教育の一環として、各職種にとって最高の「国家資格」とは何かを是非、生徒・学生に明示。

（２）中学校・高校時代から、また、大学などに入学後にどのように取り組んだらよいかのご指導をお願いします。

（３）2023 年度以降、日本の小学校・中学校・高校・大学・大学院は「プログラミング」と「半導体」一色になると思われます。これにどう備えるか、これから半年かけてご準備ください。

Ｑ：最後に一言どうぞ。

Ａ：僭越とは思いますが、今月も先生方がお読みになれば面白く、必ずお役に立つ本を何冊か紹介させていただきます。

（１）1 冊目は、明治の文豪、幸田露伴著「努力論」岩波文庫、岩波書店 1940 年 2 月 16 日刊です。お読みになればすぐにおわかりになりますが、この「努力論」は「Japanese Way of Life」。何かをなそうとしても、ままならぬことの多いこの世の中で、いたずらに悩み苦しまずに、のびのびと勢いよく生きるにはどうすればよいか、人生の達人露伴の説く幸福論(中野孝次先生の解説より引用)です。露伴の名作「五重塔」や同じく露伴が執筆した「渋沢栄一伝」どちらも岩波文庫と併せて、じっくりお読みください。「いかに生きるべきか」「幸福な生活・人生

とは何か」がじっくりわかってきます。

（2）2 冊目は、ICU 元学長の憲法学者鵜飼信成著「憲法」岩波文庫、岩波書店 2022 年 6 月 15 日刊です。本書の原版「岩波全書」の「憲法」を高校時代に手にして何回も読み、「憲法」の勉強が好きになり、大学入試は「政治経済」で受験、大いにお世話になった本書もしばらく絶版。何十年ぶりかに岩波文庫で復刊。こんなにうれしいことはなく、憲法改正が叫ばれる参議院議員選挙の真っただ中で再読。とても新鮮な気持ちになりました。小学生・中学生・高校生にたとえ 1 時間でも、たとえ 5 分、10 分でも「憲法」を教える立場にある先生(時間講師の先生も含め)全員におすすめする「憲法」の入門書です。一語一語かみしめ、理解に努めるに値する最良のテキストです。

＊鵜飼先生は、戦前・戦中ではめずらしいアメリカ憲法の専門家で、アメリカ憲法学の影響を最も強く受けて成立した「日本国憲法」の解説者としては№. 1 の先生だからです。憲法の各条文の意味・思想的背景のみならず、一番大切な全体の流れがよくわかります。

（3）3 冊目は、江藤学著「標準化ビジネス戦略大全」日本経済新聞出版 2021 年 7 月 19 日刊です。一番大切なところから標準化し、バラツキなく、きっちりとした製品やサービスを提供し続けるにはどうしたらよいか。これに加えて名著、妹尾堅一郎著「技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか」ダイヤモンド社 2009 年 7 月 30 日刊を是非お読みください。更には、藤井敏彦著「競争戦略としてのグローバルルール、世界市場で勝つ秘訣」東洋経済新報社 2012 年 4 月 14 日刊もお読みになると、標準化の重要性、ポイントが更に理解できます。

（4）4 冊目は、学習塾・予備校・私立学校の法律問題に詳しい高井・岡芹法律事務所編著「同一労働・同一賃金」日本加除出版 2022 年 6 月 14 日刊です。岡芹健夫先生の近著「労働法実務、使用者側の実践知、第 2 版」有斐閣 8 月上旬刊とともにお読みください。

（5）5 冊目は、話題の書、シャーリ・マークソン著「新型コロナはどこから来たのか―国際情勢と科学的見地から探るウイルスの起源―」ハーパーコリンズ・ジャパン 2022 年 4 月 21 日刊です。元外交官、外交評論家の河東哲夫著「日本がウクライナになる日」ccc メディアハウス 2022 年 4 月 27 日刊も超おすすめです。

2022 年 7 月 10 日記